2016.10.15

博物館 Dictionary　No.193

◆あなたに語る・時代を超えて生きる心◆

特別展覧会　没後150年　坂本龍馬について勉強してみよう。

龍馬は本当に強かったのか?
―剣術免状のはなし―

幕末に活躍した、坂本龍馬は歴史上最も有名な人物のひとりとされています。龍馬は江戸時代の天保六年（1835）に現在の高知市で生まれ、明治目前の慶応三年（1867）に京都で亡くなりました。それから約150年。博物館では大きな龍馬展を開催中です。

さて漫画や小説では龍馬は北辰一刀流という剣術の達人で、とても強かったとされます。カッコいいですよね。それは歴史的にどうして分かるのかを見て行きましょう。

龍馬は少年時代に高知で小栗流という武術を学びます。先生は日根野弁治という人でした。博物館にはこの小栗流の免状である巻物（現在の単位認定書のようなもの）が三巻残っています。複数の技の名前が書かれていますが技の中身は分りにくいものです。最初の一巻（図1）は嘉永6年（1853）3月の発行です。数え年19歳で龍馬が江戸に修行に旅立つときのものです。イメージとしては高知市の私立高校を3月に卒業して（免状が卒業証書にあたる）、4月に東京の有名大学に入るようなものですね。

江戸に着いた龍馬は北辰一刀流の道場に通いました。北辰一刀流を始めた千葉周作は有名な剣豪で神田に大きな道場（玄武館）を開いていましたが、当時かなり高齢だったため、龍馬は周作の弟千葉定吉の道場に通います。桶町千葉と呼ばれたその道場は江戸城の南東、現在の東京駅八重洲口を出たあたりにありました。本家も含めた千葉道場は江戸の三大道場のひとつに数えられ、入門者の数も多かったのです。千葉道場では合理的な教育指導がおこなわれ、有名な剣術家も修行しています。龍馬が江戸についてすぐに相模の国（現在の神奈川県）浦賀沖にペリー提督の率いる米国艦隊が出現し（嘉永6年6月）、日本中が大騒ぎとなりました。いわゆる黒船騒動です。このように外国からの

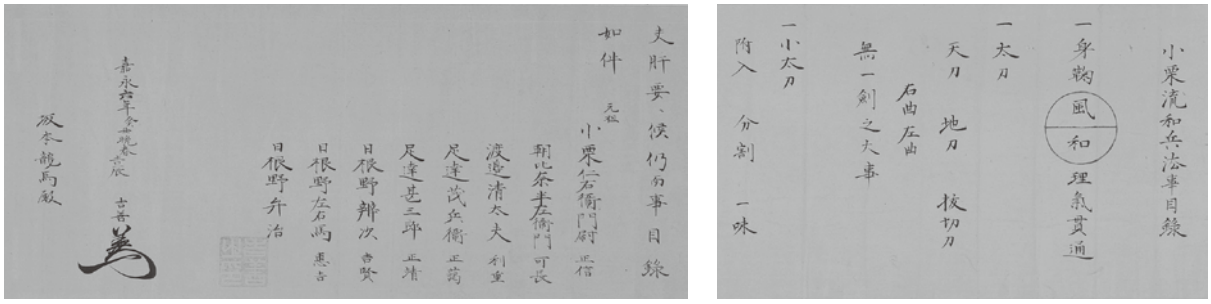

図1　重要文化財　小栗流和兵法事目録（部分）京都国立博物館蔵

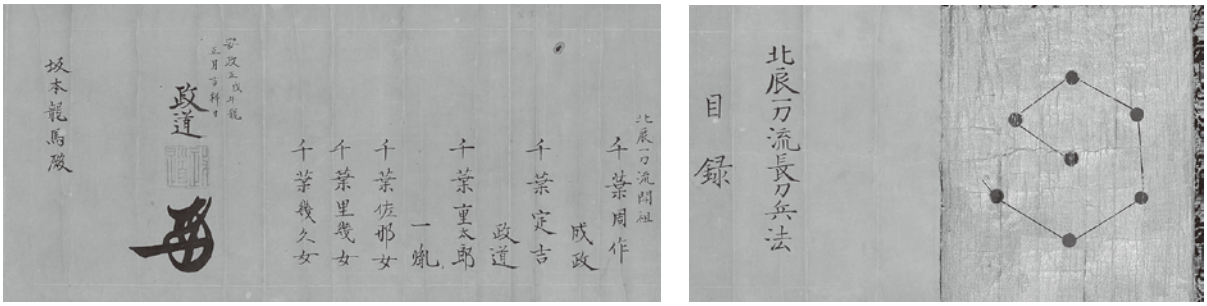

図２　北辰一刀流長刀兵法目録（部分）高知・創造広場「アクトランド」蔵

圧力が高まった時代を背景に、剣術を学ぼうとする龍馬のような若者が続々と江戸へやってきて剣術道場はますます盛んになったのです。また江戸での剣術修業の際に得た広い人脈はのちの龍馬の活躍におおいに役立ったとされます。

龍馬は安政５年（1858）１月に「北辰一刀流長刀兵法目録」（図２）一巻を授かっています。長刀の技を修得したことの証です。免状の末尾には千葉道場の関係者の名前が見られます。千葉定吉はこの目録を書いた先生。重太郎は定吉の息子で龍馬とも親しくした若先生。さらに「佐那女」とあるのが重太郎の妹で龍馬と交際していたとされる女性です。千葉佐那は大変美人だったとされますので、龍馬も隅に置けませんね。

この巻物は江戸の大道場が発行したもので龍馬の剣（長刀は剣術の一種）が強かったことを示しています。それは現在の大学の卒業証書よりも確かなことでした。お金を積んだからといって免状はもらえませんし、コネでも無理だと思われます。なぜなら龍馬が土佐に帰ったら江戸の北辰一刀流道場で免状をもらった腕前とはどれほどのものかを確かめようと皆が道場で手ぐすねを引いて待っていたはずですから。剣の実力は竹刀で立ち会えばすぐ分かります。もしも強くない者に免状を出していたら北辰一刀流の評判はガタ落ちです。これは江戸時代の固定化した階層主義に風穴をあけるものでした。身分の上下に関わらず剣の腕前に上下があることが分かることが重要です。個人の努力と実力が認められる時代（近現代的な価値観）のさきがけがこの剣術にあったと言えます。

龍馬は剣の腕がたったので自信ももっていました。殿様や旗本など身分の高い人たちとも平気で交際していましたし、危険な目にあっても落ち着いていました。

龍馬は慶応２年（1866）１月23日深夜に伏見の寺田屋で幕府役人に襲撃されますが、刀は抜かず、持っていたピストル（スミス＆ウエッソンの拳銃）で応戦しています。

慶応３年（1867）11月15日には京都河原町の近江屋で刺客に急襲され、龍馬は床の間の刀を手に取り抜く間もなく鞘ごと敵刃を受け、頭を斬られて亡くなりました。油断があったかも知れません。享年33歳。幕末を嵐のように駆け抜けた短い一生でした。

（上席研究員　宮川禎一）

印刷・富士印刷社